

大正・昭和初めに(1912-1945) 日本で記録されたコガネムシ(1)

高橋 寿郎

日本のコガネムシの研究もいよいよ日本人たちによって始まる時代になってきた。まだヨーロッパの人たちによる日本のコガネムシについての研究も行われていたが、日本人たちによる日本のコガネムシの研究が本格的になってきた時代、大正・昭和の初めにおける日本のコガネムシ研究の状況を、文献によってまとめてみることにした。

浅学未熟の著者のまとめであるから、大きな誤り、大きな見落としが多々あることと思われる。御教示頂くことが出来れば幸いである。一応、第二次世界大戦まででまとめるようにした。ただ、この時代の日本には、台湾、朝鮮産も含まれていた。ここでは、原則的には台湾、朝鮮産については取り扱わないようにしたことをお断りしておく。

本文をまとめるに当たり、日頃色々とお教示、御指導頂いている方々は多くおられる。ここにいちいち御芳名を記さないが厚く御礼申し上げさせて頂く。

なお、本文に入る前に、明治36年頃の昆虫世界にクワガタムシの図説の発表があるのがわかったので、ここに紹介しておく。

名和梅吉(1903) ノコギリムシとミヤマノコギリムシ。昆虫世界7(67):135,pl.III.

第3図版として(石版)ミヤマクワガタとノコギリクワガタがなかなかきれいに図示されている。

ノコギリムシ *Cladognathus inclinatus*, Motsch.

ミヤマノコギリムシ *Lucanus maculifemoratus*, Motsch.

勿論

ノコギリクワガタ *Prosopocoilus inclinatus* (Motschulsky)

ミヤマクワガタ *Lucanus maculifemoratus* (Motschulsky)

となる。その雄においてのみ上顎の発達したるは全く雌雄淘汰の結果にしてその体の發育不十分なものはその体に応じて上顎の不十分なるのを見ると、他にこの種に類似のものはクワガタムシの各種、カブトムシ及びダイコクムシの各種についてはまた常に前種同様の妙理を存せりと説明してある。

1912. A.Schmidt. W.Junk Coleopterorum Catalogus. Pars.42, Scarabaeidae, Aegialiinae, Chironinae. p.1-11.

日本産は1種のみ記録されている。

p.5. *Aegialia nitida* Waterhouse ニセマグソコガネ

1912. G.I.Arrow. W.Junk Coleopterorum Catalogus. Pars.43, Scarabaeidae, Pachypodinae, Pleocominae, Aclapinae, Glaphyrinae, Ocho-daeinae, Orphinae, Idiostominae, Hybosorinae, Dymamopinae, Acanthocerinae, Trogi-nae. pp.1-66.

本書には日本産6種が記録されている。即ち

p.17. *Anthyna pectinata* Lewis=*Amphicomma* ヒゲブトハナムグリ

p.23. *Ochodaesus maculatus* Waterh. アカマダラコガネ

p.40. *Phaeochrous asiaticus* Lewis=*P. emarginatus* Castelnau フチトリアツバコガネ

p.59. *Trox opacotuberculatus* Motsch. ヒメコブスジコガネ

Trox setifer Waterh. アイヌコブスジコガネ

1912. A.Boucomont. W.Junk Coleopterorum Catalogus Pars.46. Scarabaeidae, Tourocerastinae, Geotrupinae. pp.1-47.

本書には現在独立科として取り扱われているセンチコガネが含まれていて、日本産として5種の記録がある。

p.16. *Bolbocerosoma nigroplagiatum* Waterh.=*Bolbocerosoma* (*Bolbocerodema*) ムネアカセンチコガネ

p.25. *Geotrupes stereorarius* L. var. *amoenus* Jacoby 現在の知見では日本にいない種と思われる。

p.29. *G. (Phelotrupes) auratus* Motsch.=*G. (Chromogeotrupes)* オオセンチコガネ

G. (P.) laevistriatus Motsch.=*G. (Eogeotrupes)* センチコガネ

G. (P.) oshimanus Fairm.=*G. (Eogeotrupes)* オオシマセンチコガネ

1912–1913. K.W.von Dalla Torre. W.Junk
Coleopterorum Catalogus Scarabaeidae, Me-
lolonthinae I–IV.

Pars.45,1912:1–84, Pars.47,1912:85–134.

Pars.49,1912:135–290, Pars.50,1913:291–
450.

本書はコフキコガネ亜科のものをまとめたものであるが、4分冊よりなりここに一括して取り扱っておく。これらの中には日本産として次の34種が記録されている(日本産と思われぬ種もふくまれている)。

- p.11. *Serica brunnea* Linne=*Nipponoserica similis* (Lewis) カバイロピロウドコガネ
p.13. *S. nigrovariata* Lewis クロホシピロウドコガネ
p.14. *S. similis* Lewis=*Nipponoserica* カバイロピロウドコガネ
p.16. *Ophthalmoserica boops* Waterh.=*Serica* ヒゲナガピロウドコガネ
p.18. *Maladera japonica* Motsch.=*M.* (s.str.) ヒメピロウドコガネ
M. salebrosa Brenske=*M.* (s.str.) *orientalis* ヒメピロウドコガネ
p.19. *Paraserica grisea* Motsch. ハイイロピロウドコガネ
p.25. *Autoserica secreta* Brenske=*Maladera* (s.str.) マルガタピロウドコガネ
p.28. *Sericania mimica* Lewis ナヘドコチャイロコガネ
p.30. *Neoserica angulata* Lewis=*Sericania* クロチャイロコガネ
p.32. *N. quadrifoliata* Lewis=*Sericania* ヨツバチャイロコガネ
p.34. *Microserica brenskei* Reitter 日本に分布しない種と考えられる。
M. higonia Lewis=*Gastroserica* ヒゴシマピロウドコガネ
p.35. *M. nikkoensis* Brenske=*G. brevicornis* (Lewis) コヒゲシマピロウドコガネ
p.136. *Apogonia amida* Lewis ヒメカンショコガネ。
A. bicarinata Lewis フタスジカンショコガネ
p.140. *A. niponica* Lewis 日本産ではないようである。
p.201. *Holotrichia castanea* Waterh.=*Mitridia* クリイロコガネ

- p.203. *H. inelegans* Lewis=*H.* (s.str.) *kiotonensis* クロコガネ
p.204. *H. niponensis* Lewis 日本には産しないよう。
p.205. *H. picea* Waterh.=*H.* (s.str.) コクロコガネ
p.218. *Trematodes tenebrioides* Pallas. 現在の日本に産しない。
p.256. *Granida albolineata* Motsch.=*Polyphlla* (*Granida*) シロスジコガネ
p.259. *Polyphylla laticollis* Lewis=*P.* (*Gynexophylla*) ヒゲコガネ
p.265. *Heptophylla picea* Motsch. ナガチャコガネ
p.270. *Melolontha japonica* Burm. コフキコガネ
p.370. *Hoplia aureola* Pallas var. *maculicollis* Waterh.=*E. (Euchromoplia) communis* Waterh. アシナガコガネ *Hoplia aureola* は日本に産しない種である。
p.372. *Hoplia communis* Waterh.=*H. (Euchromoplia)* アシナガコガネ
p.375. *H. gracilipes* Lewis=*Ectinohoplia* キイロアシナガコガネ
p.376. *H. maculata* Bates=*H. (Euchromoplia) communis* Waterhouse アシナガコガネ
p.377. *H. moerens* Waterh.=*H.* (s.str.) クロアシナガコガネ
p.380. *H. reini* Heyden=*H.* (s.str.) ラインアシナガコガネ

1912. Moser, J. Neue Arten der Melolonthiden – Gattungen *Holotrichia* und *Pentelia*.
Ann. Soc. Ent. Belg., 56:420–449.

36新種を含む39種の *Holotrichia* 属の記載論文である。比較的、台湾、中国、トンキン、アッサム産のものが多い。その中でp.435–436に *Holotrichia convexopyga* Moser, China (Kiukiang), Japan (Kobbe) ♂による新種記載がある(=*Holotrichia* (s.str.) マルオクロコガネ)。

1913. Prell. Sauter's Formosan-Ausbeute (Dynastinae).

Suppl. Ent., II:22–23.

p.23に *Eophileuruc chinensis* (Faldermann) の1新変種 var. *irregularis* (Amami-Oshima) の記載あり。現在亜種に扱われている(アマミコカブトムシ)

1913. Pouillaude, I. Description de deux espèces nouvelle appartenant au genre *Trichius* Fabr.

Insecta, Rennes, tome 3:125-128.

p.125に奄美大島産の新種 *Trichius ferriei* を記載されているが、本種は Fairmaire が1897年に発表した *T. lagopus*=*Epitrichius* (アマミニセトラハナムグリ) と同一種である。

1913. G.J.Arrow. Notes on the Lamellicorn Genus *Popillia* and Descriptions some new Oriental Species in the British Museum.

Ann. Mag. Nat. Hist. XII(8):38-54.

東洋区の *Popillia* の研究で多くの新種を含んでいるが、日本に関係のある種はただ1新種 *Popillia lewisi* (Okinawa Is.) (オキナワマメコガネ) の記載があるだけである。

1913. Schmidt, A. Wytzman P. Genera Insectorum CL, Brunelles.

Coleoptera Lamellicornia, Scarabaeidae-Subfamily, Aegialiinae, Chironinae, Dynampopinae, Hybosorinae, Idiostominae, Ochodaeinae, Orphinae.

日本産は次の種が含まれている。

p.11. *Aegialia nitida* Waterhouse ニセマグソコガネ。

p.40. *Phaeochrous asiaticus* Lewis = *P. emarginatus* Castelanau フチトリアツバコガネ

p.56. *Ochodaeus maculatus* Waterhouse アカマダラセンチコガネ

1913. G.J.Arrow. Notes on the Lamellicorn

Coleoptera of Japan and Description of a few Species.

Ann. Mag. Nat. Hist. XII(8):394-408.

Lewis の1887年及び1875年の日本産コガネムシ相には83種が記録されていたが、それらに追加すべき種及びシノニムとしての処理、同定の訂正、新種の記載を含み109種の目録を発表された。本論文で11種の新種記載がされているが、G.Lewis の採集品は5種のみで1種は Ferrie の採集品、5種はイニシャルの違う J.E.A.Lewis の採集品である。

本報にて新種として記載された種について記しておく>(*印は新種として記載された種の意味で便宜的に付したものである)。

p.397. **Sericania lewisi* ルイスチャイロコガネ (横浜, 中禅寺, 日光)。

p.398. **Autoserica castanea* = *Maladera* (s.str.) アカビロウドコガネ 神戸 (J.E.A.Lewis, 18.VI.1912), 中国。

p.399. **Apogonia bicavata* リュウキュウカンシヨコガネ 沖縄 (J.E.A.Lewis, 23.V.1913)。

p.400. **Melolontha frater* オオコフキコガネ 奈良, 京都, 紀伊和田, 神戸 (VI.VII)。

p.401. **Anomala japonica* ヤマトアオドウガネ 南部日本, 新潟, 朝鮮。

p.402. **Anomala xanthopleurae* リュウキュウドウガネ 沖縄島 (J.E.A.Lewis, V.1913)。

p.403. **Anomala chloroderma* オオシマドウガネ Oshima I:Naje (Ferrie, 1895)。

**Anomala (Phyllopertha) intermixta* = *Phyllopertha* アオウスチャコガネ 日光, 中禅寺, 札幌。

p.404. **Protaetia hondana* = *P. (Nipponoprotaetia) lenzi* (Harold) レンツアオハナムグリ Kobe (VII.1913, J.E.A.Lewis leg.), Tanegashima (V.1973, J.E.A.Lewis leg.), Hiroshima (Janson Coll.)。

p.405. **Protaetia cataphracta* = *Protaetia (Liocola)* ムラサキツヤハナムグリ 日光, 蓴菜, 碓井峠。

この *P.hondana* 及び *cataphracta* を記載した後でいわゆる属について言及し、従来の *Protaetia* Mulsant, *Liocola* Thomson, *Pyropotosia* Reitter, *Protaetia* Burmeister は *Protaetia* に統一すべきであり、そうなれば Moser の発表した *Liocola formosana*, *Potosia (Coloptosia) formosana* と同一属の同名種となるから後者に *P. inquinata* なる名を与え、極東地区の同属の検索表を発表しておられる。最近、ロシアとかチェコあたりの論文を見ると、細分した取扱いをしている。例えば、Miksic の分類では *Protaetia* を多くの亜属に分けて扱っている (1987)。

p.408. **Chromovalgus laetus* = *Neovalgus* オオシマヒラタハナムグリ Loo Choo Is.:Oshima (J.E.A.Lewis, V.1913)。

以上11種が新種として記載された。1種のみシノニムとして消えるが、他は現在でも有効である (属名変更のものはある)。

1913. 素木得一 「一般害虫に関する調査」

台湾総督府農事試験場特別報告第8号, 670p.

+索引40p. 図版別冊.

当時の台湾での害虫と考えられるものを種毎にその形態の記述と経過習性とか被害植物も示されている。17新種記載と種名確定ができていない種が11種(sp.の表示)が含まれているので重要な文献となる(甲虫についての新種記載はない)。甲虫は68種が取りあげられている。全般にいえることではあるが、学名は現在の知見で相当変わると考えられる。同定違いもあるように思われる。コガネムシ科は9種が取りあげられ、中には和名、学名、昆虫学上の位置とだけで何の記載をも伴っていないもの(被害植物名だけは各種になっている)4種で、詳しく解説されているものはタイワンアオドウガネ、キバナメコガネ、ルリメコガネ、タイワンシロホシハナムグリ、タイワンカブトムシの5種である。当時の状況からしてこれだけまとめあげるのは大変だったと推察される。

1913. 新島善直 「森林昆虫学」

412p.+50p. (博文館・東京)

昆虫分類関係の文献ではないが、標題のごとく森林害虫について一種ずつ生態、形態、分布などを記している。コガネムシは10種取りあげられている。学名など当然現在では訂正を要するものがある。

1915. Ohaus, F. Beitrag zur Kenntnis der Ruteliden (Col. Lamell. Rutelin)

Stettiner Ent. Zeit. LXXVI:88-97.

スジコガネ類18種(7新種記載を含む)の記載並びに多くの新変種を記載している。また、*Mimela* 属を *Paramimela* 属と区別して取り扱っている。日本産の新種記載はないが、新変種として多くの日本産を記している。はたしてこのような分け方ができるのかどうか、現在ではこのような扱いはされていない。次に新変種として記載されているものを記してみる。

p.90. *Paramimela costata* Hope = *Anomala* var. *flavipennis* (Japan)p.91. *P. flavilabris* Waterhouse = *Mimela* var. *cuprifulgens* (1♂, Gifu)
var. *sculpticollis* (Nikko, Chiuzenji)*P. testaceipes* (Motsch.) = *Anomala* var. *ochrochalea* (♀, Japan, Hatima = Harima?)var. *ochroptera* (Japan : Yokohama, Mukoda)p.92. *Paramimela testaceipes* (Motsch.) = *Anomala*var. *cyprioptera* (♂, Japan : Yokohama)var. *anocypria* (♀, Japan : Kobe)1915. Ohaus, F. Beitrag zur Kenntnis der paläarkt Anomala-Arten (Col. Lamell. Rutelin).
Stettiner Ent. Zeit. LXXVI:302-331.

旧北区に産する *Anomala* 属の分類論文であり、ヨーロッパ、アジア地域、ロシア、朝鮮、日本、台湾の4地区に分けて記してある。もっとも朝鮮のところにも日本に分布している種も記されている。

日本のところでは次の2新種及び9新変種、1既知種が記載されている。新種の1種は他種のシノニムで1種のみ現在有効である。

p.320. *Anomala rufocuprea* Motsch. var. *viridicuprea*
Anomala rufocuprea Motsch. var. *viridiana**Anomala rufocuprea* Motsch. var. *violacea**Anomala rufocuprea* Motsch. var. *castanipennis*p.321. *A. motschulskyi* Har. var. *viridicuprea**A. motschulskyi* Har. var. *apta**A. motschulskyi* Har. var. *violacea**A. motschulskyi* Har. var. *rufoviolacea**A. difficilis* Waterhouse var. *cupreata* (Yesso, Yokohama, 2♂)*A. lucens* Ballion (Nagasaki, Yokohama, Kobe and Amakusa)p.322. *A. schoenfeldti* (♂♀, Japan : Yokohama, Nagasaki)p.323. *A. Lenzi* = *Mimela difficilis* (♀, Japan : Yokohama bei Tokyo)p.325. この日本のところで *Phyllopertha diversa* Waterh. subsp. nov. *koreana* と朝鮮産の新亜種を記載している。

以上のごとくであるが *A. rufocuprea* 及び *A. motschulskyi* は現在では同一種として取り扱われているので、これらの変種の取扱いも整理されなくてはならないが、この種は日本産で最も普通のコガネムシであり、色彩変化も大変多く変種としては明確に区別することは困難であると考えられる。

1915. M. Curti. Beitrag zur Kenntnis der paläarktischen Cetoniden, I. (Col.)

Ent. Mitt. IV:17-26.

p.20-21に日本産(神戸) *Cetonia* (*Eucetonia*) *Bodemeyri* なる1新種の記載がある。神戸産なので筆者もかなり調査したのであるが、どうも色彩に

よる変化のみで記載されたようで現在の *Cetonia* (*Eucetonia*) *roelofsi* Harold, 1880 アオハナムグリのシノニムとして扱った方がよいと考える。

1915. Moser, J. *Neue Serica-Arten* (Col.).

Deut. Ent. Zeut. Heft. IV:337-393.

53種の新種記載が含まれ、朝鮮、台湾、支那等日本に近いところからの記載はあるが(その他東南アジア、スマトラ、ボルネオ等多い)、日本からのものは全く記載されていない。

p.340に *Autoserica infuscata* = *Maladera* (s.str.) なる新種が Korea, China から記載されていて、この種は対馬に産する記録があるが(村山, 1954)、現時点ではこの産は疑問がある。

p.341-342に Korea (Soul) より *Autoserica cariniceps* = *Maladera* (s.str.) なる新種が記載されている。この種は野村 鎮による記録 Nagasaki (13.VII.1958), Tsushima (20.VII.1960) があり (Ent. Rev. Japan, XVI, 2:52, 1964) 日本に分布している。

1918. Ohaus, F.W. *Junk Coleopterorum Catalogus Pars.66. Scarabaeidae, Euchirinae, Phaenomerinae, Rutelin* pp.1-241.

日本産として次の種が記録されている。

p.32. *Parastacia ferrieri* Nonf. = *Ohkubous* ヨツバコガネ

p.67. *Anomala cuprea* Hope ドウガネブイブイ
A. daimiana Har. サクラコガネ

p.68. *A. difficilis* Waterh. = *Mimela* ツヤスジコガネ

p.73. *A. geniculata* Motsch. ヒメサクラコガネ

P.74. *A. lenzi* Ohaus = *Mimela difficillis* ツヤスジコガネ

p.75. *A. motschulsky* Har. = *A. rufocuprea* Motsch. ヒメコガネ

A. octiecostata Burm. ヒラタアオコガネ

A. rufocuprea Mots. ヒメコガネ

A. schoenfeldti Ohaus チビサクラコガネ

p.77. *A. triangularis* Schonf. サンカクスジコガネ

p.78. *A. viridana* Kolbe = *A. japonica* Arrow ヤマトアオドウガネ

p.101. *A. (Euchlora) albopilosa* Hope = Arrow アオドウガネ

A. (E.) multistriata Motsch. = *A. albopilosa* Hope アオドウガネ

p.114. *Phyllopertha* (s.str.) *diversa* Waterh. = *Phyl-*

lopertha ウスチャコガネ

p.116. *Phyllopertha* (s.str.) *intermixta* Arrow = *Phyllopertha* アオウスチャコガネ

p.117. *P.* (s.str.) *irregularis* Waterh. = *P.* キスジコガネ

p.118. *P. (Blitopertha) conspurcata* Har. = *Blitopertha* カタモンコガネ

p.119. *P. (Exomala) orientalis* Waterh. = *Blitopertha* セマダラコガネ

p.121. *P. (Proagopertha) pubicollis* Waterh. = *Proagopertha* ナラノチャイロコガネ

p.128. *Mimela (Paramimela) costata* Hope = *Anomala* オオスジコガネ

M. (P.) flavilabris Waterh. = *Mimela* ヒメスジコガネ

M. (P.) holoserica F. = *Anomala holoserica japonica* Machtschke キンスジコガネ

p.129. *M. (P.) testaceipes* Motsch. = *Anomala* スジコガネ

p.130. *Popillia insularis* Lewis ツキガタマメコガネ

P. japonica Newman マメコガネ

p.135. *P. lewisi* Arrow オキナワマメコガネ

p.190. *Adoretus (Lepadoretus) tenuimaculatus* Waterh. コイチャコガネ

1921. S.Schenkling, W. *Junk Coleopterorum Catalogus Pars.72, Scarabaeidae, Cetoninae*, p.1-430.

本書にはハナムグリ亜科のものが記録されている。日本産として17種含まれている。属名の変更以外にシノニムとして整理されているのが5種ある。

p.63. *Rhomborrhina japonica* Hope = *Pseudotorymorrhina* カナブン

p.64. *R. polita* Waterh. = *R.* (s.str.) クロカナブン

p.65. *R. unicolor* Motsch. = *R.* (s.str.) アオカナブン

p.205. *Cetonia (Eucetonia) bodemeyeri* Curti = *Eucetonia roelofsi* アオハナムグリ

C. (E.) hondana Arrow = *Protaetia (Niponoprotaetia) lenzi* (Harold) レンツアオハナムグリ

C. (E.) pilifera Motsch. ハナムグリ

C. (E.) roelofsi Har. アオハナムグリ

p.221. *Liocola brevitarsis* Lewis = *Protaetia (Liocola)*

- シラホシハナムグリ
- p.222. *L. insperata* Lewis=*Protaetia* (*Liocola*)
ミヤマオオハナムグリ
- L. lenzi* Harold=*Protaetia* (*Niponoprotaetia*)
レンツアオハナムグリ
- p.224. *L. speculifera* Swartz=*Protaetia* (*Calopototia*) *orientalis* シロテンハナムグリ
- p.225. *L. aerata* Er.=*Protaetia* (*Calopototia*) *orientalis* シロテンハナムグリ
- p.259. *Protaetia orientalis* Gory & Perth.=*P.* (*Calopototia*) シロテンハナムグリ
- p.268. *Poecilophilides rusticola* Burm.=*Anthracophora* アカマダラハナムグリ
- p.273. *Glycyphana fulvistemma* Motsch. クロハナムグリ
- p.280. *Oxycetonia forticula* Jans.=*Gametis* アオヒメハナムグリ
- p.281. *O. jucunda* Falderm.=*Gametis* コアオハナムグリ
1921. Schmidt, Ad. Beitrag zur Kenntnis der Gattungen *Canthon* Hffsg., *Sybx* Boh., *Aphodius* Ill. *Simogenius* Har., *Ataenius* Har. *Archv. Naturg.*, LXXXVI, A(9):114-147.
- 世界各地からの糞虫類10種の *Canthon* 属の種の解説と13新種の記載及び9新種の記載, *Sybx* 属の1新種, *Aphodius* 属7新種の記載, *Simogenius* 属1新種, *Ataenius* 属3新種及び1既知種の記載を含む論文である。p.140-142に *Aphodius* (*Trichaphodius*) *connatus* なる新種(ヒメケブカマグソコガネ)が Seich (Korea), Tsushima (Japan) から記載されている。日本の本州, 伊豆(利島), 対馬, トカラ(宝島) に分布している。
1922. Schmidt, AD. *Aphodiinae*, Das Tierreich 45.
Lieferung Berlin und Leipzig.
- 世界の *Aphodiinae* の分類書で pp.I-XXXVI u 1-614 の大冊である。はじめに Subfam. *Aphodiinae* Arrow の一般体制の解説があり, Tribus の検索に始まり Genus の検索, 亜属の検索, 種の検索があり, 亜属毎に種の記載がある。収録されているのは5族, 43属, 72亜属, 1,149種が記載されている。
- 日本産は次の32種が記載されている(日本産に関しての新種の記載はない)。
- p.28,18a. *Aphodius* (*Teuchestes*) *brachysomus* Sol-
- sky=A. (*Teuchestes*) セマルオオマグソコガネ
- p.33,26. *A. (Pleuraphodius) lewisi* Waterh. コスジマグソコガネ
- p.51,70b. *A. (Loboparius) globulus biscetus* Waterh.=*A. (L.) bisectus* セマルマグソコガネ
日本産ではないのではと考えられる。
- p.59,83. *A. (L.) rugosostriatus* Waterh.=*A. (Pharaphodius)* スジマグソコガネ
- p.72,117. *A. (Ammonoecius) trituberculatus* Ad. Schm.=*A. (Agrilinus) breviusculus* (Motsch.) ヌバタママグソコガネ
- p.102,172. *A. (Acrossus) atratus* Waterh. クロツヤマグソコガネ
- p.129,221. *A. (Aganocrossus) urostigma* Har. フチケマグソコガネ
- p.138,241. *A. (Trichaphodius) pilosus* Har.=*A. (Balthasarianus) eccoptus* Bates ケブカマグソコガネ
- p.178,315. *A. (Volinus) obsoletoguttatus* Waterh.=*A. (Chilothorax) nigrotessellatus* (Motsch.) セマダラマグソコガネ
- p.191,337. *A. (V.) pallidigonis* Waterh.=*A. (Paremadus)* ネグロマグソコガネ
- p.193,343. *A. (V.) punctatus* Waterh.=*A. (Chilothorax) nigrotessellatus* (Motsch.) セマダラマグソコガネ
- p.200,357. *A. (Aphodaulacus) nigrotessellatus* Motsch.=*A. (Chilothorax)* セマダラマグソコガネ
- p.209,372. *A. (Phaeaphodius) rectus* Motsch. マグソコガネ
- 372b. *A. (P.) rectus biformis* Reitt. マグソコガネ
373. *A. (P.) semicolor* Reitt.=*A. (P.) rectus* マグソコガネ
- p.277,524. *A. (s.str.) elegans elegans* Allib. オオフタホシマグソコガネ
- p.289,546. *A. (Agrilinus) nigerrimus* Waterh.=*A. (A.) breviusculus* (Motsch.) ヌバタママグソコガネ
- p.291,550. *A. (A.) uniformis* Waterh. エゾマグソコガネ
- p.298,562b. *A. (Bodilus) sordidus quadripunctatus* (Panz)=*A. (Agrilinus) sordidus* (Fabr.) ヨツボシマグソコガネ

- p.305,575. *A. (Bodilus) languidulus* nom. nov. Ad. Schm. 本論文で新しく命名された種 (China, Japan)=1875, *A. obsoletus* (non. J.C.Fabricius, 1801); C.O.Waterhouse in Tr. ent. Soc. London, p.88=*A. (Acanthobodilus)* キバネマグソコガネ
- p.315,604. *A. (Nialus) sublimbatus* Motsch.=*A. (Labarrus)* ウスイロマグソコガネ
- p.324,620. *A. (Calamosternus) uniplagiatus* Waterh. オビマグソコガネ
- p.326,630. *A. (Aphodinus) lividipennis* Waterh.=*A. (Phaeaphodius) rectus* (Mots.) ab. マグソコガネ
- p.327,633. *A. (A.) ovalis* Waterh.=*A. (Agrilinus) brevisculus* (Mots.) ヌバタママグソコガネ
- p.362,1. *Caelius denticollis* Lewis トゲマグソコガネ
- p.384,14. *Oxyomus jugous* Lewis=*Mozartius* マルマグソコガネ
- p.405,12. *Saprosites japonicus* Waterh. クロツツマグソコガネ
14. *S. narae* Lewis ヒメツツマグソコガネ
- p.464,5. *Dialytes foveatus* Ad. Schm. フトツツマグソコガネ
- p.476,8. *Psammobius ainu* Lewis=*Psammodius* (s.str.) アイヌケシマグソコガネ
- p.480,22. *P. japonicus* Har.=*Psammodius (Leiopsammodius)* ヤマトケシマグソコガネ
- p.483,32. *P. convexus* (Waterh.)=*Psammodius* (s.str.) セマルケシマグソコガネ

1922. S.Schenkling, W.Junk *Coleopterorum Catalogus Pars.75, Scarabaeidae, Trichiinae, Valginae.* pp.1-58.

本書はトラハナムグリ, ヒラタハナムグリ両亜科のものを含んだ世界産の目録であり, 日本産としては10種が取り扱われている。属名の変更, 種名の変更, 亜種の取扱いにすべきもの等々があり, 現在の日本には産しないと思われる種が1種含まれている。

- p.7. *Osmoderma opicum* Lewis オオチャイロハナムグリ
- p.20. *Gnorimus septemebecinguttatus* Snell. voll. Jijdsche=*Paratrichius* ジュウシチホシハナムグリ
- G. subopacus* Motsch. イブシアシナガハナム

グリ

- p.26. *Paratrichius doenitzi* Har. オオトラフハナムグリ
- p.27. *Trichius fasciatus* L. 本種は日本に産せず。
- p.32. *T. japonicus* Jans. トラハナムグリ
- T. lagopus* Fairm.=*Epitrichius* アマミニセトラハナムグリ
- p.45. *Chromovalgus fumosus* Lewis=*Neovalgus* ヒラタハナムグリ
- p.48. *Dasyvalgus angusticollis* Waterh.=*Nipponovalgus* ヒラタハナムグリ
- p.50. *D. tuberculatus* Lewis トゲヒラタハナムグリ

1923. 鈴木元次郎. 日本産鍬形虫

通俗昆虫雑誌1(1):5-16, pl.1,2.

京都でアマチュアを中心とした「昆虫学雑誌」(大日本昆虫学会)が1915年(大正4年)2月5日創刊号を発行した。そして大正8年(1919)9月発行のVol.4, No.1をもって廃刊となった。

会の責任者の一人鈴木元次郎は会費負債の弁償として通俗昆虫雑誌を3冊発行した。その第1号に鈴木元次郎によって日本産鍬形虫を図版をつけて解説されている。

図説されたのは9種(ルリクワガタ, ツヤハダクワガタ, ネプトクワガタ, コクワガタ, スジクワガタ, アカアシクワガタ, ヒメオオクワガタ, オオクワガタ, ヒラタクワガタ)だけのものであり(この文献を所有していないのでよくわからない), まず一般的に見られる種が中心のように思われる。ただ日本人による日本産クワガタムシの解説としては松村松年博士のもの(1906)に次ぐものとして見逃すわけにはいかない。

1923. 楚南仁博. マメコガネの属名 *Popillia* と *Po-pilia*. 昆虫世界27(312):278-281.

現在 *Popillia* が用いられている。

1923. 新島善直・木下榮次郎. こがねむしニ関スル研究報告(第二) 我國二産スルこがねむし及其分布

北海道帝国大学農学部演習林研究報告Vol.2, No.2:1-253, 7pls.

1927. 新島善直・木下榮次郎. こがねむしニ関スル研究報告(第三)(追加及訂正)

北海道帝国大学農学部演習林研究報告Vol.4:
1-97, 3pls.

この時代までに松村松年博士の研究を除いて日本のコガネムシの研究は主として欧州人によってされてきた。それが日本人による日本のコガネムシの総合的研究として初めて発表されたのがこの報文である。

この報文は、岡博士が1917年"こがねむしの被害及び駆除に関する研究報告(第一)"を発表され、その続編として日本に産するコガネムシの種類を分類し、各個の昆虫学上の性質を記載し、更に識別点を明らかにして主として林業宛の実用に供せしめ、且つ各種の分布区域を確かめんことを期したと冒頭に書いてその目的を明示しておられる。

当時の日本のことであるから朝鮮、台湾産も含まれて多くの新種の記載と図説がある。その当時までに日本産として知られた種で標本を検したものは全部記載があり、標本のないものは種名のみを記してある。現在の知見からすれば同定の間違っている種もあり、新種として記載されたものはシノニムとして姿を消さねばならぬものもあるが、日本の当時のコガネムシの同定には非常に役立った貴重な文献である。第三は第二の追加及訂正とあるが、一緒に含めて眺めた方が良いと考えられる。各種についての当否の検討は長くなるので省略するが、本報文で新種として発表された種は全部(但し現在の日本産のみ)を次に取りあげて現在の取扱いがどうであるかを記しておく。ただコガネムシといってもこれらの報文は食葉類についてのみの意味で広い意味でのコガネムシではない。(II)

p.17. *Serica karafutoensis*, Taf.III, fig.5 エゾピロウドコガネ

樺太からの新種記載であるが千島、北海道に産し、本州産は subsp. *honshuensis* Nomura ホンシュウピロウドコガネと取り扱われている。

p.32. *Sericania hidana*, Taf.II, fig.9,9a (Hida) ヒダチャイロコガネ

p.34. *S. shinanoensis*, Taf.II, fig.7 (Shinano, Fukuo-ka) = *S. quadrifoliata* (Lewis) ヨツバチャイロコガネ

p.62. *Melontha japonica* Burm. var. *Gotenbaensis*
現在変種として取り扱っていない。コフキコガネ

M. satsumaensis, Taf.II, f.5, Taf.IV, f.19, Taf.VII,

f.13 (Kagoshima, Miyazaki, Kochi) サツマコフキコガネ

p.105. *Anomala tokioensis*, Taf.I, f.18, Taf.VII, f.11 (Tokyo) = *A. lucens* Ballion ツヤコガネ

p.126. *Phyllopertha kiotoensis*, Taf.VI, f.17 = *Blitopertha conspurcata* (Harold) カタモンコガネ

p.128. *P. tanbaensis*, Taf.VI, f.21 (Tanba, Kochi) = *Blitopertha orientalis* (Waterh.) セマダラコガネ

p.129. *P. fuscata*, Taf.VI, f.22 (Hokkaido) = *P. intermixta* (Arrow) アオウスチャコガネ

p.139. *Popillia comma*, Taf.I, f.9. 台湾産での新種記載であるが現在奄美大島に分布が知られている。= *P. insularis* Lewis

p.170. *Liocola miyakoensis*, Taf.II, f.6, Taf.V, f.14, Taf.VII, f.17 (Miyakojima, Tosa) = *Protaetia (Liocola)* ミヤコオオハナムグリ

p.174. *Potosia nitidiscutellata*, Taf.V, f.2, Taf.VII, f.18 (Kyoto) = *Protaetia (Niponoprotaetia) lenzi* (Harold) レンツアオハナムグリ

p.190. *Gromius*, Otsuka, Taf.V, f.4 (Kochi, Shinano, Odaigahara) = *Patricius doenitzi* Harold オオトラフコガネ

(III)

p.12. *Autoserica Uyei*, Taf.I, f.8, Taf.III, f.3 (Oita) = *Maladera (s.str.) secreata* (Brenske) マルガタピロウドコガネ

p.14. *Sericania fulgida*, Taf.I, f.59, Taf.III, f.4 (Chuzenji) ツヤチャイロコガネ

p.15. *S. Galloisi*, Taf.I, f.58, Taf.III, f.5 (Chuzenji) ガロアチャイロコガネ

p.23. *Brahmina ishigakiensis*, Taf.I, f.18, Taf.III, f.7 (Ishigaki-jima) = *Dasylepida* ケブカアカチャコガネ

1925. Ohaus, F. I. Nachtrag zur Rutelinenfauna Formosas (Col. Lamell.)

Archiv. f. Naturg, XCI, A, Heft.5:122-131.

標題のごとく台湾からのスジコガネ類9新種、1新変種の記載であるが明らかに沖縄産での記載並びに現在の知見で日本に産する種を含んでいる。

p.126, f.3. *Anomala Nijimae* Ohaus ♂ (Ishigaki) ニイジマスジコガネ

p.128, f.5. *A. edentula* Ohaus ♂ ♀ (Formosa, China と Tonkin にも分布すると) ムシスジコガネ。

現在琉球列島(沖縄, 石垣島, 西表, 久米, 徳

之島)に分布し奄美大島には亜種 *amamiana* Nomura, 沖縄・久米島の亜種 *okinawana* Nomura, 石垣・西表の亜種 *yaeyamana* Nomura に分けられている。

p.130, f.8. *Phyllopertha okinawaënsis* Ohaus = *Blitopertha okinawaënsis* オキナワセマダラコガネ
台湾からの記載であるが、種名のとおり沖縄に分布している。種名は上記のごとくなっている。

1926. Goidanich, A. *Observazioni sopra il genere Onthophagus* Latr.

Bull. Soc. Adr. Nat. XXIX.

p.138に *Onthophagus viduus* Harold = *G. (Gibbonthophagus)* マルエンマコガネが大島に産することの記録。

1927. A. Boucomont et J. J. E. Gillet. *W. Junk Coleopterorum Catalogus. Pars. 90, Scarabaeidae, Coprinae, II, Tremitotroginae.* pp.103-263.

本書に記録された日本産は13種である。

p.108. *Oniticellus phanaeoides* Westw. = *Liatongus* ツノコガネ

p.113. *Caccobius brevis* Waterh. ヒメコエンマコガネ

p.115. *C. jessoensis* Har. マエカドコエンマコガネ

C. nikkoensis Lewis ニッコウコエンマコガネ

p.117. *C. vacerosus* Lewis = *C. brevis* ヒメコエンマコガネ

p.132. *Onthophagus ater* Waterhouse = *O. (Phanaeomorphus)* クロマルエンマコガネ

O. atripennis Waterh. = *O. (Gibbonthophagus)* コブマルエンマコガネ

p.137. *O. fodiens* Waterh. = *O. (Phanaeomorphus)* フトカドエンマコガネ

p.139. *O. japonicus* Har. = *O. (Strandius)* ヤマトエンマコガネ

p.140. *O. lenzi* Har. = *O. (Strandius)* カドマルエンマコガネ

p.141. *O. lutosopictus* Fairm. = *O. (Matashia)* アカマダラエンマコガネ

p.142. *O. ocellatopunctatus* Waterh. = *O. (s.str.)* アラメエンマコガネ

p.150. *O. viduus* Har. = *O. (Gibbonthophagus)* マ

ルエンマコガネ

1927. Y. Miwa (1927) *A List of Japanese Lucanidae, with the description of one new species.*

Ins. Mats., 2(1):25-31.

その当時、日本(台湾・朝鮮も含む)産クワガタムシは36種が知られており、この報文で13種(うち1種は本論文で新種として発表)を追加、日本産クワガタムシ科49種の目録並びに分布表をつけられた。個々の種については現在相当訂正しなくてはならないが、純然たる現在の日本産のみでないのでその検討は省略したい。

ただ、この論文で新種として記載された *Eurytrachelus yezoensis* Miwa がその後著者自身によって *Dorcus hopei* の local race であると訂正されている(1931) = *Dorcus curvidens binodulosus* Waterhouse オオクワガタ。

1928. Didier, R. *Etudes sur les Coleopteres Lucanides du Globe, Face, 2:55.*

筆者はこの文献を所有していないので詳しいことがわからない。ただp.55に奄美大島産のクワガタムシ新種 *Aegus taurulus* Didier の記載があるとのこと。三輪勇四郎博士は大島産は *A. laevicollis subnitidus* にして *laevicollis* の local race なりとされている(1934)。現在は *A. laevicollis taurulus* Didier (アマミネブトクワガタ)と扱われている。

1928. 町田貞一・青山哲四郎. *朝鮮害虫編* 前・後編. 304p.+424p. (三宅琢造本店出版部. 朝鮮・釜山)

本書は分類学の文献ではない。朝鮮における害虫を被害植物別に多くの図を入れて生態、形態、駆除予防法を紹介している。前編ではピロウドコガネ(p.125-127)、マメコガネ類、テウセンクロヒラタコガネ、テウセンヒメコガネ、クロコガネ(p.213-216)が、後編ではナラノチャイロコガネ、テウセンシラホシハナムグリ、クロホシアシナゴコガネ(p.98-104)が取りあげられている。

1929. Y. Miwa. *An Addition to the List of Lucanid-species from the Japanese Empire.*

Ins. Mats., 3(2/3):72-76.

1927年の著者のクワガタムシ科の目録に洩れた種並びに未記録種を記録するとともに、2新種の

記載をされた。当時の日本であるから台湾、朝鮮が含まれている。新種は次の2種。

p.73-74, f.1. *Neolucanus insularis* Miwa チャイロマルクワガタ

Loo-Choo; one male specimen has been collected at Ishigaki Island in July, 1922 by S. Hirayama.

p.74-75, f.2. *Leptimopterus formosanus* Miwa ウスバクワガタ

Taiheizan 1♂, 7.VI.1926 (T.Kano), Karenko 1♀, 19.VIII.1919 (J.Sonan)

現在前者の和名はチャイロマルバネクワガタが用いられている。属名はともに *Dorcus* 属に扱われている。

1929. Balthasar, V. Zehn neue Palaearctische Formen aus der Familie der Lamellicornien. Acta Soc. Ent. Cech. 25:114-115.

p.114に *Pyropotosia Pryeri Obenbergeri* Balthasar, Liou Kiou (Japan), Insel Okinawa と新亜種の記載。

p.45に *Pyropotosia Pryeri* ab. *euchalcea* Balthasar, Ein Exemplar ♀, Liou-Kiou (Japan) Insel Oshima と異常型が記載されている。

ともにオオシマツヤハナムグリ *Protaetia pryeri oschimana* (Nonfeld) になる。

1930. 神谷一男. マダラクワガタ (*Aesalius asiaticus* Lewis) に就いて 昆虫 4(4):277-279.

標題のごとくマダラクワガタの図説がある。当時としては貴重な文献の一つであった。

1930-1931. 横山桐郎. 日本の甲虫(正・続) (西ヶ原刊行会刊)

ようやく日本のコガネムシ、否甲虫類全般についてある程度の研究が行われ、一般にどんな甲虫が日本にいるのかを知らしめようという気運が生まれてきた。そしてその目的のための原色図鑑の出版が始まった。数年の間に数種の図鑑の発行があった。それぞれその時代での正しいとされる同定に基づく図鑑であるが、甲虫全般を記す関係上、個々の種についてはかなり誤りも含まれ、それらを一々検討していくことはここでは省略したい。

分類学上からの功績ということになると、別に新種の記載を含んでいるわけでもなく、分類学的

検討を加えているわけでもない。そういった意味からは本報文の主旨から省くべきかもしれないが、啓蒙的な意味での研究史上の一つの意義ありと思ひ、以下書名のみを記すことにした。

1931. 松村松年. 日本昆虫大図鑑 (刀江書院刊)

1931. 松村松年. 日本通俗昆虫図説 III (春陽堂刊)

1931-1934. 三輪勇四郎. 大日本鍬形虫科の研究(1~5)

台湾博物学会々報 XXI:315-326, 1931.

XXII:87-97, 123-132, 1932. XXIII:353-371, 1933. XXIV:317-332, 1934.

この研究は4年間にわたり5回に分けて発表されたものであるが、当時の大日本、即ち台湾、朝鮮を含み、現在の日本産という意味からすれば相当異なるが、図も豊富で日本産クワガタムシの研究としては貴重な論文であり、当時の日本産の目録並びに文献目録も重要である。

従来、Aesalinae に含まれていた *Ceruchus* 属により本報文で新たに Subfamily Ceruchinae を創設した。現在の日本産としては23種解説されている。そのうち、上記1新亜科の創設がある。

学名は現在では変わっているものも多い。ここには注意しておく点のみ説明しておく。

XXI, p.318. *Lucanus maculifemoratus* Mots. ミヤマクワガタ

p.319. *L. ferriei* Planet アマミミヤマクワガタ

p.327. *Rhaetulus* 属は *Lucaninae* 亜科に含まれるべきでないとして新たに *Rhaetulinae* 亜科を創設された。現在はやはり *Lucaninae* 亜科として取り扱われている。

XXII, p.94. *Neolucanus saundersi* Parry

この記載に用いられた標本は、当時どこに所有されているかわからない旨記されている。

分布は北部印度、台湾となっている。現在の日本に産するのは、この種とは違って *Neolucanus insulicola* 及び *N. protogenetinus* である。

p.97. *N. insularis* Miwa, 1929年に石垣島産で記載された種。チャイロマルバネクワガタ。

p.125. *Psolidoremus inclinatus* Mots. ノコギリクワガタ = *Prosopocoilus*

- p.126. *P. motschulskyi* Waterhouse = *Prosopocoilus*
マレー諸島, 台湾の記録であるが, 日本の
石垣島, 西表島に *P. pseudodissimilis* Y. Kuro-
sawa ヤエヤマノコギリクワガタを産す。
P. dissimilis Boileau リュウキュウノコギリク
ワガタ = *Prosopocoilus*
- p.130. *Prismognathus angularis* Waterhouse オ
ニクワガタ. 九州産は subsp. *morimotoi* Y.
Kurosawa, 1975 ミナミキュウシュウオニクワ
ガタとして分けられている。
- XXIII, p.356. *Eurytrachelus costatus* Boileau スジブ
トヒラタクワガタ = *Dorcus metacostatus* Ki-
kuta. *E. platymelus* Saunders (Dorcus) を原
種として日本産は9亜種に分けられて, 本種
は subsp. *pilifer* (Snellen van Vollenhoven)
ヒラタクワガタとなる。
- p.358. *E. rectus* Mots. = *Dorcus* コクワガタ
p.360. *E. striatipennis* Mots. = *Dorcus* スジクワ
ガタ
E. rubrofemoratus Vollenhoven = *Dorcus* アカア
シクワガタ
- p.362. *Dorcus hopei* Saunders オオクワガタ =
Dorcus curvidens binodulosus Waterhouse, 1874
p.363. *D. montivagus* Lewis ヒメオオクワガタ
九州産は subsp. *adachii* Fujita et Ichikawa,
1987 キュウシュウヒメオオクワガタ
p.367. *Aegus laevicollis* Saunders ネプトクワガ
タ. 日本産は8亜種に分けられている。
p.370. *Platycerus delicatulus* Lewis ルリクワガ
タ
- XXIV, p.318. *Nigidius lewisi* Boileau ルイスツノヒ
ョウタンクワガタ
p.320. *Figulus binodulus* Waterhouse チビクワ
ガタ
F. punctus Waterhouse マメクワガタ
Ceruchinae 亜科を創設。
p.321. *Ceruchus lignarius* Lewis ツヤハダクワ
ガタ
p.322. *Nicagus japonicus* Nagel マグソクワガタ
Aesalus asiaticus Lewis マダラクワガタ

1931. 三輪勇四郎. 台湾産昆虫目録(鞘翅目)
台湾総督府中央研究所農業報告(55):270-
310, 312-314.

標題のごとく台湾産甲虫目録であるが, 勿論そ
の当時の日本のことであり, 収録されているもの

も台湾産であっても本土に分布する種も含まれる
わけである。

各種について原記載名と産地分布が含まれると
同時に分類に基づいた配列がしてあるので大変貴
重である(もちろん同定間違いの種もあるし, 分
類, 学名その他訂正しなくてはいけない点も多々
ある. 全文359p.+13p.の大冊で, 鯉角類が上記頁に
記録されている)。

1931. Murayama, J. A Contribution to the
Morphological and Taxonomic Study of Lar-
vae of Certain May-Beetles which occur in
the Nurseries of the Peninsula of Korea.

Bull. Forest Exp. Stat. XI:1-108, 17pls.

標題のごとく朝鮮産のコガネムシ類幼虫の形態,
分類論文であるが, 現在の日本産の種も含まれて
いるのでこの種の研究があまり無いだけに貴重で
ある。日本産の種は次のごとく含まれている。

- p.20-28, fig.16. *Serica orientalis* = *Maladera* (s.str.)
ヒメビロウドコガネ
p.30-33, fig.18. *Ectinohoplia rufipes* カバイロアシ
ナガコガネ
p.33-37, fig.19. *Apogonia cupreviridis* チョウセン
カンショコガネ
p.38-41, fig.20. *Holotichia diomphalia* チョウセン
クロコガネ
p.41-44, fig.21. *Holotrichia morosa* = *H. parallela*
オオクロコガネ
p.56-58. *Anomala testaceipes* = *Mimela* スジコガ
ネ
p.64-67, fig.24. *Phyllopertha conspuracata* = *Blito-
pertha* カタモンコガネ
p.75-79, fig. *Liocola brevitarsis* = *Protaetia* (*Liocola*)
シラホシハナムグリ
p.79-81. *Oxycetonia jucunda* = *Gametis* コアオハ
ナムグリ

1931. Kono, H. Die Trypoxylus-Arten aus Ja-
pan and Formosa (Col. Scarabaeidae)

Ins. Mats., 5(4):159-160, pl.3.

本論文において台湾産ツノボソカブト *Trypo-
xylus tsunobosonis* Kono を記載されるとともに岩
手県からカブトムシ *Trypoxylus dichotomus* Linne
の1新種 *f. septentrionalis* Kono を記載しておられ
る。現在の知見では *Allomyrina* 属の種に扱われて
いるがいわゆる *A. dichotomus* は中国, 台湾に当

てるべきで日本産はsubsp. *septentrionalis* になるとされている(黒沢良彦, 日本昆虫図鑑II, pl.76, f.1, p.417, 1985). ツノボソカブトムシの方は原名亜種のシノニムに扱われている。

1932. Balthasar. *Aphodius haroldianus* n. n.
für *Aphodius apicalis* Har.
Ent. Nachrbl. VI:1-7.

1861年 Harold が *Aphodius apicalis* として発表した種を本論文(p.3)で *Aphodius (Colobopterus) haroldianus* と命名している=A. (C.) *quadratus* Reiche, 1847 オオマガソコガネ

1932. 湯浅啓温. ピロウドコガネ類 3種の学名
昆虫 6(3):115-118.

この当時の日本産コガネムシ類の同定の基礎になるものは、新島善直・木下榮次郎両博士の"こがねむしニ関スル研究報告"(1923, 1927)であった。その中で取り扱われているピロウドコガネ類3種の学名を検討されたのが本報文である。即ち、

Autoserica (Maladera) japonica Mots. は *Aserica castanea* Arrow であると。現在は *Maladera* (s.str.) *castanea* (Arrow) アカピロウドコガネ

Motschulsky の *Serica japonica*—現在 *Maladera* (s.str.) *japonica* は新島・木下両氏の *Serica (Maladera) orientalis* Mots. のことであり、同じく新島・木下両氏の *Serica salebrosa* Brenske は Arrow が *orientalis* Mots. のシノニムとして認めており、*Serica orientalis* となる—現在 *Maladera* (s.str.) *orientalis* ヒメピロウドコガネ。

1932. 湯浅啓温. アカピロウドコガネ属属名
昆虫6(5/6):301.

Arrow (1927) の研究により湯浅啓温博士 (1932) は *Autoserica* は *Aserica* のシノニムとして取り扱ったが、1932年発表の E.A. Chapin の "Autoserica Brenske pro *Aserica* Lewis" (Proc. Ent. Soc. Wash., 34:122-124) に書き、Arrow の *Aserica* が *Autoserica* のシノニムである (Lewis の *Aserica* は *Serica* のシノニム) とされている。もっとも現在では、*Maladera* 属として取り扱われている。

1932. 内田清之助他. 日本昆虫図鑑 (北隆館
刊)

1933. 神谷一男・安立綱光. 原色甲虫図譜 (三

省堂刊)

1933. 平山修次郎. 原色千種昆虫図譜 (三省堂
刊)

1933. 加藤正世. 分類原色日本昆虫図鑑, 第八
輯 (厚生閣刊)

1933. 加藤正世. 昆虫図譜(I, VI)

昆虫界1(2):155-161, pl.9. 2(7):61-67, pl.46.

最後のものはともに機関誌に発表されたもので前の図鑑と同じ考えで良いと思う。(I)には16種。(VI)には14種の図説があるがもちろんその当時の日本産の種ばかりである。

1934. S. Matsumura. Insects collected at the
foot of Mt. Yatsugadake and its environment.
Ins. Mats., 9(1/2):60-80.

標題のごとく八岳山麓の昆虫の記録であるが、その中で次の5種のコガネムシの新種記載がある。現在全部他種のシノニムとして取り扱われている。

p.65. *Aphodius (Acrossus) koichianus* = A. (*Balthasarianus*) *ecoptus* ケブカマガソコガネ

p.66. *Oniticellus yoheai* = *Liatongus phanaeoides* (Westwood) ツノコガネ。

p.67. *Onthophagus koichii* = *Caccobius jessoensis* Harold マエカドコエンマコガネ

O. minokuchianus = *O.* (s.str.) *bivertex* Heyden
シナノエンマコガネ

p.68. *O. shinanensis* = *O.* (s.str.) *bivertex* Heyden
シナノエンマコガネ

1934. Balthasar, V. Neue Coprinen-Arten und
Abarten

Ent. Blätter 30:146-149.

p.146に *Copris frankenbergeri* Balthasar なる新種が日本 (Insel Kasaka) から記載されている。中根猛彦博士によると *C. acutidens* の大型の♂とよく一致すること (1955)。

その後 Balthasar 博士自身中根猛彦博士の意見のように取り扱っている (1964)。

1935. W.D. Hincks et J.R. Dibb. W. Junk Coleo-
pteroorum Catalogus Pars. 142.

Passalidae. pp.1-118.

世界のクロツヤムシ科の目録であるが、日本産

は1種しか含まれていない。

p.12. *Cylindrocaulus patalis* (Lewis) ツノクロツヤムシ

1935. 加藤正世. 主要金亀子科の分類(1-4)

昆虫界 3(14):108-117, 3(15):158-162, 3(17):283-289, 3(18/19):342-349.

新島善直・木下榮次郎両博士の研究(1923, 1927)並びに三輪勇四郎博士の台湾産昆虫目録(鞘翅目)(1931), Arrow の研究(1910)を基礎としての当時の日本産(台湾・朝鮮産をも含む)のコガネムシの目録であるが, 食葉コガネ類ばかりであり, 従来の知見をまとめたものである。現在からすれば相当変わっているが, 当時としては大変便利なものであった。

1935. Balthasar, V. *Onthophagus*-Arten Chinas, Japans und der angrenzenden Länder.

Fol. Zool. Hydrobiol, VIII:303-353.

本論文は旧北区のダイコクコガネ類(*Scarabaeiden*)の研究(30)として発表されたもので標題のごとく支那・日本及びその隣接地域の *Onthophagus* の概説である。

この中で7新属, 13新種, 1新亜種の記載がある。

13新種は全部支那産であるが1種のみ支那, 日本産として *Onthophagus (Phaeomorpha) Cernyi*, pp.312-313として記載されている。ただし, 残念ながらこの種は現在 *O. (P.) ater* Waterhouse と同一種として取り扱われている。

新種記載の後で支那・日本及び隣接地域の *Onthophagus* の検索表がまとめられ, 日本産8種が含まれてこの論文で日本産として取り扱われていないが, 現在の日本には分布している4種(*solivagus*, *tricornis*, *bivertex*, この種には亜種 *minokuchianus* を産す, *olsoufieffi*)がある。

1935. 三輪勇四郎. 奄美群島の甲虫類

関西昆虫学会々報(6):11-30, p.3, 4.

新種の記載があるだけでなく分類学的検討も加えられないのであるが, 当時の奄美大島のコガネムシ相をまとめたものとして, また美しい原色図でそれらを紹介した報文として忘れられないものの一つである。

1936. Balthasar, V. *Monographie der Subfam. Troginae der paläarktischen Region.*

Festschr.60, Geburt, Prof. E.Strand, I:407-459.

Embrik Strand 教授還暦記念論文集として1936~1939の間に5巻発行されたが, Balthasar 博士の旧北区のコブスジコガネ亜科のモノグラフはその第1巻(1936.X.17発行)に発表された。旧北区なる故当然日本産が含まれる。

はじめに Troginae 亜科の概説があり, p.432-433に属の検索が示され, p.433から *Trox* 属の種の検索の形式で各種が記載されている。

日本産は材料が充分でなかったようであり, 次の2種が出ているだけである。

p.447-448. *Trox setifer* Waterhouse, Japan (Shimabar) アイヌコブスジコガネ

p.448. *Trox obscurus* Waterhouse, Japan, China (Hongkong) = *Omorgus chinensis* (Bohemann, 1858) オオコブスジコガネ

1936. 村山醸造. 金亀子駆除試験報告第三報 ウスキイロコガネ *Phyllopertha pallidipennis* Reitter の習性並経過に関する研究。

朝鮮総督府林業試験場報告第23号:1-164, I-XIpls. (うち1pl. color)

分類の書ではないが, 表記種について形態, 生活史, 習性, 駆除等についての詳しい研究論文である。朝鮮では害虫としてよく知られていた種と考えられる。戦前の文献では, 日本の本州, 四国, 九州にも分布と書いてあるが, この種は現在の日本には分布しないコガネムシとされている。

1936. 高木 茂. クロハナムグリの一新異常型について

昆虫世界40(467):256-257.

Glycyphana fulvistemma Motsch. の黒色新異常型 ab. *nagoyanus* の記載(現在異常型の扱いはしていない)。

1936. 高木 茂. ムモンクロハナムグりに就いて。

昆虫世界40(471):407-408.

上記の学名を ab. *nagoyana* に改める。

1936. 饒平名智郎. 浅間山麓のツノフトエムマコガネ。

昆虫世界40(472):434-435.

ツノフトエンマコガネ *Onthophagus tragus*

Fabricius を浅間山麓から記録されているが、これは純東洋区系の種で日本には産しないとし、その種は *O. shinanensis* Mats. のことであり、その1新亜種として *f. brevicornis* Yohena を記載されたが現在では *O. (s.str.) bivertex* Heyden となる(シノエンマコガネ)。

1936. 加藤正世・久次米正雄. ヒゲプトハナムグリの雌に就いて.

昆虫界4(25):134-135.

従来知られていなかったヒゲプトハナムグリの雌についての記載.

1936. 野村 鎮. 尾瀬付近産コガネムシ科糞虫類、特に最近命名せられたる五種に就いて.

昆虫界4(32):698-705.

尾瀬沼付近産糞虫類の記録で松村松年博士の発表された1934年の5種について邦文の記載が加えられている。この種の取扱いについては松村(1934)を参照。

1936. 饒平名智郎. ムラサキセンチコガネに就いて.

虫の世界1(5/6):12-14.

従来ムラサキセンチコガネと称せられていたものはオオセンチコガネのことであるが、一部センチコガネを意味することを論じたもの。

1936. S.Matsumura. New *Caccobius*-species in Japan with a tabular key.

Ins. Mats., 11(1/2):61-66.

従来、日本産 *Caccobius* 属は5種知られていたが、本報文で8新種が記録された。これらの種は次のごとく現在ではかなり整理され、1種を残し他は全部シノニムとなる。

p.62. *Caccobius hirayamai* = *Caccobius jessoensis* Harold

p.63. *C. jononis* = *Onthophagus (Gibbonthophagus) viduus* Harold

C. kasuganus = *Caccobius nikkoensis* (Lewis)

p.64. *C. narashinensis* = *Onthophagus (Gibbonthophagus) viduus* Harold

C. sapporoensis = *Caccobius jessoensis* Harold

p.65. *C. suzukii*

C. yubariensis = *C. jessoensis* Harold

p.66. *C. yamauchii* = *C. unicoloris* Fabricius

1936. 三輪勇四郎・中條道夫. 日本産鞘翅目分類目録

Pars.2. 鍬形虫科. p.1-11.

Pars.3. 黒黴虫科. p.1-2.

三輪勇四郎・中條道夫両博士により、当時の日本産鞘翅目分類目録発行を計画され、初めて台湾昆虫研究所より刊行、後に野田書房に発行が引き継がれて執筆者に水戸野武夫氏も加わったが、残念ながらPars.8までで発行中止となってしまった。

現在から見れば、相当の訂正をしないではいけない点が多々あるが、これは研究の進歩からやむを得ぬことである。むしろ当時としては画期的な研究で長く記録に残すべきものである。

収録範囲は当時の日本で朝鮮、台湾、樺太をも含んでいる。

1937. 加藤正世. だいこくこがね亜科の分類
昆虫界5(39):291-295.

日本産(台湾・朝鮮産も含む)のダイコクコガネ亜科の分類であるが、現在の分類で学名の訂正すべきものもあるが、これはここに一々訂正を省略し、当時の分類の一段階を知る貴重文献として掲げておく。

1937. 昆虫趣味の会. 全日本産鍬形虫科一覽目録

昆虫界5(45):765-769.

前記、三輪勇四郎・中條道夫両博士の目録と同様の範囲である(台湾、朝鮮産も含まれている)。

1936年に発表された三輪勇四郎・中條道夫博士の"日本産鞘翅目分類目録第一輯 鍬形虫科"の52種に1937年三輪勇四郎博士が台湾から新種記載された2種(台湾博物学会々報Vol.1. XXVII, No. 166)を加え、54種の目録である。昆虫趣味の会まとめとなっているが、もちろん加藤正世博士の執筆のものである。

1937. G.J.Arrow. W.Junk Coleopterorum Catalogus Pars.156. Scarabaeidae. Dynastinae, p.1-124.

本書は世界のカブトムシ亜科のリストであるが、日本産はわずか2既知種しか記録されていない。

p.83. *Eophileurus chinensis* Fald. コカブトムシ

var. *irregularis* Prell. Oshima I. = *Eophthourus chinensis irregularis* Prell. アマミコカブトムシ

1937. 加藤正世. 金亀子圖説(1)

昆虫界5(45):782-783.

Ochodaeus maculatus Waterhouse の図説(アカマダラセンチコガネ)

1937. 渡辺福寿. 森林動物相調査報告 第一輯 金亀子科, 104p. 24pls. (青森営林局)

青森営林局管内, いわゆる三陸地方におけるコガネムシ類の図説で, 65種を54図版で解説されている。分類学的新知見はなくむしろ現在の知見では学名の変更もかなりあり, 同定の間違いも見られるが, 当時の日本産コガネムシ類の分類としては実に貴重な文献の一つとして取り扱うべきである。

1937. S. Matsumura. Two New Species of *Caccobius* (Scarabaeidae)

Ins. Mats., 11(3):120-121.

本論文で *Caccobius* 属の2新種が記載されたが(1種は饒平名氏と共同命名になっている), 現在ではともに整理され, 他種のシノニムとして取り扱われている。即ち,

Caccobius matsui Matsumura et Yohena = *Caccobius brevis* Waterhouse ヒメコエンマコガネ
Caccobius amagisanus Matsumura = *Caccobius jeensoensis* Harold マエカドコエンマコガネ

1937. S. Matsumura. New *Onthophagus*-species in Japan with a tabular key.

Ins. Mats., 11(4):150-169.

本論文では *Onthophagus* 属の新種30種(うち6種は饒平名智郎氏と共同命名)と1新記録並びに1新称が含まれている。この多数の新種もそのほとんど全部が整理される。

- p.152. *Onthophagus aequipennis* = *O. (Gibbonthogus) viduus* Harold.
 p.153. *O. akirai* = *O. (G.) atripennis* Waterh.
O. chibanus = *O. (G.) viduus* Harold
 p.154. *O. chuzenjanus* = *O. (Phanaeomorpha) ater* Waterh.
O. hikosanus = *O. (P.) fodiens* Waterh.
 p.155. *O. ibonus* = *O. (G.) atripennis* Waterh.
O. hynganus = *O. (G.) viduus* Harold
 p.156. *O. jedensis* = *O. (G.) viduus* Harold
O. kandai = *O. (s.str.) olsoufieffi* Boucomont
 p.157. *O. kawarimus* = *O. (P.) ater* Waterh.

- p.158. *O. kogatanus* = *O. (G.) atripennis* Waterh.
 p.159. *O. komabellus* = *O. (G.) viduus* Harold
O. kozunonis = *O. (s.str.) bivertex* Heyden
 p.160. *O. matsukoi* Matsumura et Yohena
O. minoi = *O. (Gibbonthogus) viduus* Harold
 p.161. *O. misujanus* = *O. (G.) viduus* Harold
O. miyazakianus = *O. (G.) viduus* Harold
 p.162. *O. oishii* = *O. (G.) viduus* Harold
O. okushirianus = *O. (G.) viduus* Harold
 p.163. *O. oniellus* = *O. (s.str.) bivertex* Heyden
O. shigoi = *O. (G.) atripennis* Waterh.
 p.164. *O. sobosanus* = *O. (P.) fodiens* Waterh.
O. shurianus = *O. (G.) viduus* Harold
 p.165. *O. spurius* = *O. (G.) viduus* Harold
O. takabayashii = *O. (G.) viduus* Harold
 p.166. *O. ushiodai* = *O. (P.) fodiens* Waterh.
O. uedanus = *O. (s.str.) olsoufieffi* Boucomont
 p.167. *O. yohennai* = *O. (s.str.) bivertex* Heyden
 p.168. *O. yubarinus* は後に中根猛彦博士によりタイプ標本を研究の結果, ラベルの誤りと考えられ, 日本のファウナから除外されている。
O. yugiganus = *O. (P.) fodiens* Waterh.
 p.169. *O. yumigatanus* = *O. (Gibbonthogus) viduus* Harold

上記のごとくただ一種を除き全部整理されるわけであるが, この1種も中根猛彦博士によると日本のファウナから除外した方がよいということで, そうなるとすべての種が新種ではないわけである。

1937. Tesar, Z. *Copris yamamotoi* n.sp.

Acta Soc. ent. Ceckoslov. 34(4):101.

山本 弘が岩手県松尾鉾山付近の海拔500~1000 mの地点より採集された10数頭の標本に基づきチェコスロバキアの国立博物館の Z. Tesar が *Copris yamamotoi* Tesar として新種の記載をした。本種は現在では *Copris pecuarius* Lewis のシノニムとされている。